

観光と馬事文化の推進は馬つこパーク・いわての活用から

春緑クラブ
佐藤 澄子議員

滝沢村の歴史の中で、馬の存在は大きく、チャグチャグ馬コの伝統を引き継ぎながら、脈々と馬事文化が繋がって、いくことを大切に、村内はもちろんのこと広域に広げていくことは、現代の私たちにかせられたいと考えます。村独自の観光と馬事文化の確立にあたる、観光物産振興について伺います。

問 観光関連施設との連携は。

答 2つのキャンプ場や自然情報センター、お山の湯などの村営の施設、岩手産業文化センター、岩手山青少年交流の家、馬つこパーク・いわて、ネイチャーセン



問 観光と馬事文化の情報発信として、核になる施設整備の必要性は。

ターなどの国、県の施設、ほかにも、柳沢地区の工房群や岩魚の養魚場などを関連施設と考えます。しかし、これらの施設を観光と馬事文化をつないだ体制は無く、今後、その様な仕組みづくりの検討が必要と考えます。

答 21年1月に「馬つこパーク・いわて」を馬産地岩手の馬事公苑として活用することを目指し、(社)岩手県馬事振興会を中心にチャグチャグ馬コ保存会構成の盛岡市、矢巾町、滝沢村、さらには、馬事振興団体、ホースセラピー振興NPO、岩手大学、県立大学等がメンバーとなり「岩手県馬事公苑構想」を策定しました。その一つ、馬事文化部門の中で馬つこパーク・いわての施設を活用し、チャグチャグ馬コや馬産地岩手の馬事文化を展示する博物館構想が協議されていることから実現できるよう支援していきます。

その他の質問

・観光関連施設との連携状況について
・馬事文化継承の推進状況について

地域住民の生活安定への除雪対策を

しののめ会
熊谷 初男議員

「冬期間における公共交通を確保し、地域住民の生活の安定を図ることが目的」とされ除雪が行われています。

除雪に対して住民の意見では、今年2月の地域アンケートによると「満足している」が全体で48・6%に留まっています。

また、担当課への情報(苦情)も21年度は、280案件が寄せられています。

除雪対策について以下3点をお聞きします。



問 次に、自動的除雪を支援する除雪機械貸付について、各地域の取扱い状況はどうなっているか。

答 出動の基準は、積雪がおおむね10cm以上と予想される時、午前7時までに作業が完了するように委託業者に指示しています。

委託業者には、地域懇談会にも参加を求め住民との懇談を深めるよう努めています。

問 私道除雪について村の考え方は。

答 私道は私的財産であり、村の直接除雪はしていません。

新たな制度での農業振興方策は

春緑クラブ
日向 清一議員

新たに制定された「食料・農業・農村基本計画」が実効あるものとして、食の安全と安心を確保し、食料の安定供給、農業の持続性発展が今後さらに重要と考えます。

今年導入された戸別所得補償モデル対策ですが、基本計画では米を主な対象としたモデル対策の実施状況を踏まえて対象品目の拡大の検討を行なうとしており、ますます農業を取り巻く環境は変わるうとしていきます。

このようなきこそ村として、総合的にしかも効率的な農業振興方策を展開することが重要と思われ、考えを伺います。

村への定住に対する支援策は

新志会
柳村 一議員

問 村への定住に対する支援策の考えは。

答 総合計画での重点政策として若者定住促進を掲げ検討を行っています。その第一段として婚活登山を実施し、参加者に対し若者定住という視点からもアンケートを実施しました。

その結果、「住む場所として滝沢村はいいところか」との設問への回答は「いい」とてもいい」が68%、村外の方に「滝沢村に住んでみたいと思うか」の回答は「とても思う」「わりと思う」が43%でした。

現在、定住策について様々な角度から検討を行っており「将来にわたって住みたい」「住むこ

とができる地域」「外から見て住みたいと思える地域」を基本的な考えとして、今年度中に既存の施策との関連を含めて具体的に取組めます。

問 事業計画への新価値創造プロジェクトやゼロ予算事業の活用への考えは。

答 新価値創造プロジェクトは、後期基本計画の重点政策推進のため「滝沢ブランド推進」「若者定住推進」「食育推進戦略」の調査検討事業に、自由度を持った予算を配分して取組めます。

ゼロ予算事業は、相談事務など24の事務事業を推進します。

問 小中学校の学力向上策と小中学校の一貫教育への考えは。

答 学力向上策は、学校に対して1時間ごとのゴールを明確にし、授業を継続実施することを指導しながら「学習意欲の向上と基礎・基本の確実な定着を図る指導の充実」「国語、算数・数学、英語力の向上」「教員研修の充実」「評価活動の改善」の4つの柱で構成した「学力向上プラン」を確実に実施します。